

安心安全のまち

豪雨災害から市民を守る
対策について

加藤 誠一
(黎明21)

問 近年の大規模洪水災害の発生を受けて水防法が改正されたが、対策の見直し等はあるか。

答 ハザードマップの想定総雨量の考え方が計画規模から想定最大規模へ見直され、3日間総雨量は利根川491mm、荒川632mmとなり、現行よりもそれぞれ173mm、84mmアップした。

問 新たな想定総雨量による浸水被害はどのようなものか。

答 利根川の氾濫（決壊）時は地域の95%が、荒川の場合は地域の60%が浸水する。また、それぞれの浸水区域の約10%で3〜5mの浸水が発生する。

問 防災備蓄倉庫は小・中学校の校庭や駐車場等に設置されている。学校自体が約1〜2m浸水するため浸水の可能性が懸念されるが、対策は。

答 浸水を考慮した場所への設置が望ましいが、現状は困難なため当面は備蓄品を高所へ移動するなどに対応したい。

問 避難所運営委員会が機能するまで、開設準備等は数名の市職員と施設管理者で行うとのことだが、日頃の連携が重要ではないか。

答 市職員と施設管理者の連携及び自主防災組織等との日頃からの連携が重要であり、バックアップ体制を強化したい。

問 避難者の中には体の障害等のため、二次避難所へ移る方も発生するが受け入れ態勢は万全か。

答 総合福祉会館やすらぎの里の他、社会福祉法人運営の高齢者及び障害者の入所施設12カ所、計117名の方を受け入れる協定を結んでいる。

その他の主な質問
○ブロック塀の倒壊対策
○コミュニティスクール

子どもの健康

小・中学生の通学時の荷物
の重量化について

二本柳 妃佐子
(公明党)

問 ランドセルは小学生が通学する時の必需品。なんでも持ち運べて便利な反面、重すぎるランドセルが原因で腰痛になる小学生が増えている。重量化の原因の1つは教科書の大形化等である。また、ランドセルは軽量化しても、容量が増え、全体の重さは以前の倍以上になっている。荷物の重量化の現状と健康への影響について市の認識は。

答 児童・生徒の荷物の重量化は認識しているが、教科書等の持ち帰りは各学校に任せている。重い荷物による体への負担や安全面も懸念されることから、健康への影響について把握していく。

問 認識しているとのことだが、実態調査はされたのか。

答 各学校に聞き取りを行ったほか、保護者から直接声をいただいている。

問 どのようなことが懸念されるのか。

答 体への影響としては、姿勢が悪くなることや背骨や腰への影響が懸念される。また、安全面では不審者から逃げるのが困難になることや自転車の運転がスムーズにいかなくなり、車や人へ接触することが懸念される。

問 教材の持ち帰りについて、リストがあるのか。

答 各学校の各教科主任が、持ち帰らなくてもよいものを決めている。リストは各学校で作成し掲示している。

問 今後の対策が一番大切だが、本市の考えは。

答 昨日文科省から発信された通知を踏まえ、各校の実情に応じて児童・生徒の負担軽減につなげていく。

その他の主な質問
○児童虐待の早期発見と防止について

子育て施設

公立保育園、児童センターの老朽化、
きつずプラザの部屋の有効利用

斉藤 博美
(日本共産党)

問 公立保育園は建設から40年も経ち外壁の汚れや内部の壁紙の剥がれなど改修・補修が進んでいない。南河原は小まめに修繕しているが、長野、持田は中が非常に暗く古いと感じるがどう思うか。

答 同様な印象は持っている。

問 長野保育園では1歳、2歳用のたった1つしかない便器が随分前に壊れ、おまるで対応していた。壊れたのはここ2〜3年の話ではない。修繕は早急に行うべきではないか。

答 改めて調査している。内装についても、財政面も含め優先順位をつけ判断したい。

問 児童センターもオープンから40年が経つ。建物ももちろん内容も含め時代遅れではないか。体を動かして遊べる施設ではなく家庭用のゲームを貸し出す施設となっていないのか。

問 まっている。足利市のキッズピア等、先進例を参考にリニューアルすべきではないか。

答 指摘はよくわかる。子どもたちを自由に遊ばせたいという気持ちもあるが、新施設については財政面も踏まえ、今後も努力していきたい。

問 きつずプラザあいはほとんどプレイルームしか活用しておらず、子育て施設だが授乳室もない。さらに、併設の会議室は地域住民が月4時間利用する以外は常にシャッターを閉めている。こどもを含め全体の部屋の有効活用を考慮すべきではないか。

答 確かにそういった視点もある。様々な意見をいただく中でより良い施設になるよう考えていく。

その他の質問
○鴻巣行田北本環境資源組合から脱退すべきではないのか。